

令和6年12月17日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が11月下旬～12月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

### 千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (11月下旬～12月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
冬春トマト	うどんこ病	並	発病株率：並【0.40%/2.36%】 気象予報：日照時間多(-)	<a href="#">30</a>
	灰色かび病	並	発病株率：並【0.00%/0.12%】 気象予報：日照時間多(-)	<a href="#">31</a>
	黄化葉巻病	やや多	発病株率：やや多【0.40%/0.19%】(+) 成虫寄生株率(タバココナジラミ)： やや多【0.40%/0.16%】(+)	<a href="#">31</a>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)：並【0.00%/0.04%】 成虫寄生株率(タバココナジラミ)：	<a href="#">33</a>
	タバココナジラミ	やや多	やや多【0.40%/0.16%】(+) 気象予報：日照時間多(+)	<a href="#">33</a>
冬春キュウリ	うどんこ病	少	発病葉率：少【3.80%/11.70%】(-) 気象予報：日照時間多(-)	<a href="#">37</a>
	褐斑病	並	発病葉率：並【0.00%/0.27%】 気象予報：日照時間多(-)	<a href="#">38</a>
	菌核病	並	果実発病度：並【0.00/0.58】 気象予報：日照時間多(-)	-
	べと病	少	発病葉率：少【0.00%/7.51%】(-) 気象予報：日照時間多(-)	<a href="#">39</a>
	オンシツコナジラミ	やや少	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)： やや少【0.00%/1.16%】(-)	<a href="#">40</a>
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率(タバココナジラミ)： 多【7.20%/0.44%】(+) 11月黄色粘着トラップ誘殺数：並【11.27頭/22.53頭】 気象予報：日照時間多(+)	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (11月下旬～12月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
キャベツ	菌核病	並	発病株率(冬キャベツ) : 並【0.00%/0.80%】 発病株率(春キャベツ) : 並【0.00%/0.00%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">36</a>
	黒腐病	やや多	発病度(冬キャベツ) : 多【13.20/1.81】(＋) 発病度(春キャベツ) : 多【1.20/0.06】(＋) 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">36</a>
秋冬ネギ	さび病	並	発病度 : 並【0.00/0.38】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">34</a>
	べと病	並	発病株率 : 並【0.00%/0.32%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">34</a>
	ネギアザミウマ	並	成幼虫寄生株率 : 並【22.40%/32.63%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(＋)	<a href="#">34</a>
冬レタス	灰色かび病	並	発病株率 : 並【0.00%/0.16%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">42</a>
	菌核病	並	発病株率 : 並【0.00%/0.28%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－)	<a href="#">41</a>
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率 : 並【2.67%/3.33%】 気象予報 : 日照時間多(－)	<a href="#">42</a>
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生株率 : 並【2.93%/3.69%】 11月黄色粘着トラップ誘殺数 : 少【1.45頭/9.69頭】(－) 気象予報 : 日照時間多(＋)	<a href="#">44</a>
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率 : 少【2.93%/15.82%】(－) 気象予報 : 日照時間多(＋)	<a href="#">45</a>
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率 : やや多【18.40%/9.70%】(＋) 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(＋)	<a href="#">28</a>
カーネーション	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率 : 並【0.00%/1.52%】 11月黄色粘着トラップ誘殺数 : 並【2.00頭/4.46頭】 気象予報 : 日照時間多(＋)	-
	ハダニ類	やや少	成虫寄生株率 : やや少【0.00%/3.52%】(－) 気象予報 : 日照時間多(＋)	-
ストック	菌核病	並	発病株率(施設ストック) : 並【0.00%/0.00%】 " (露地ストック) : 並【0.00%/0.00%】 本年2月発病株率(施設ストック) : 並【0.00%/0.15%】 " (露地ストック) : 並【0.00%/0.16%】 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(－) 日照時間多(－)	-
野菜・花き共通	コナガ	やや少	11月フェロモントラップ誘殺数 : 並【0.82頭/1.98頭】 10株当たり寄生幼虫蛹数(冬キャベツ) : やや少【0.00頭/0.23頭】(－) " (春キャベツ) : 並【0.00頭/0.08頭】 幼虫寄生株率(施設ストック) : 並【0.00%/0.58%】 " (露地ストック) : やや少【0.00%/3.75%】(－) 気象予報 : 気温低(－) 降水量少(＋)	<a href="#">45</a>

\* 1 フェロモントラップ誘殺数 : 1日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 黒腐病（キャベツ）

[令和6年度病害虫発生情報第2号「キャベツ黒腐病の発生状況について」も参照する。](#)



- (2) 灰色かび病（野菜・花き共通）

[令和6年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



- (3) コナジラミ類（野菜・花き共通）

[令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。](#)



## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### ヒョウタンゾウムシ類

千葉県において農作物に大きな被害を及ぼすヒョウタンゾウムシは、「サビヒョウタンゾウムシ」と「トビイロヒョウタンゾウムシ」の2種（以下ヒョウタンゾウムシ類）である。この2種の生態や農作物への加害痕は、ほぼ同じであると考えられている。また、形態による2種の判別は、肉眼では困難である。

ヒョウタンゾウムシ類は広食性で、成虫（写真1・2）は地上部を（写真3）、幼虫（写真4）は地下部を食害し（写真5・6）、農作物に甚大な被害を及ぼすことがある。

ヒョウタンゾウムシ類によるラッカセイ地上部の被害株率（県内10地点の平均）は、9月上旬は86.00%（平年値68.68%）と、過去11年中2位であった（図1）。8月上旬は同1位、7月上旬は同3位であり、継続して多かった（図2）ことから、来春の被害多発が懸念される。

ヒョウタンゾウムシ類による主な経済的な被害部位は地下部であることから、被害を抑制するために耕種的な防除を心掛ける。



写真1 サビヒョウタンゾウムシの成虫



写真2 トビイロヒョウタンゾウムシの成虫



写真3 食害されたラッカセイの葉



写真4 幼虫（左）と蛹（右）



写真5 食害されたニンジン



写真6 食害されたラッカセイの莢

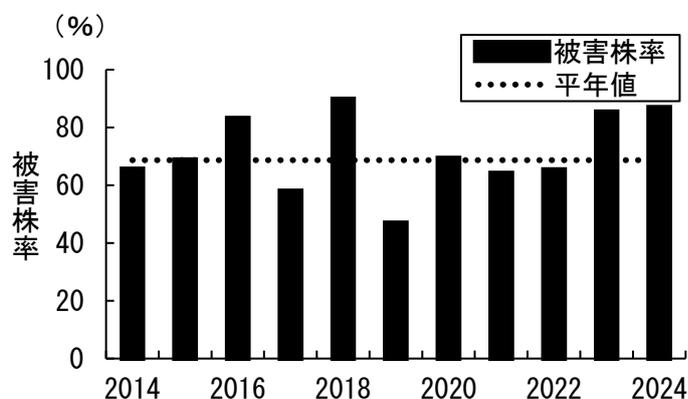


図1 ヒョウタンゾウムシ類による9月上旬におけるラッカセイ地上部被害株率（県内10地点の平均）

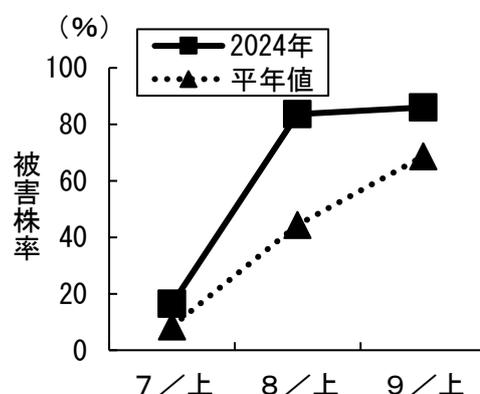


図2 ヒョウタンゾウムシ類によるラッカセイ地上部被害株率の推移（県内10地点の平均）

### <被害のようす>

地下部の食害により、ニンジン・ラッカセイ・ゴボウ・ネギ等で商品価値が著しく低下する。

地上部では、作物の播種・定植後に子葉や若い本葉が食害されると、生育遅延や枯死の原因となる。葉菜類では、本葉の周囲が食害されることによって商品価値が著しく低下する。

### <生態>

幼虫でも成虫でも越冬する。成虫での越冬は、前年から地上で活動した後で主に雑草や冬作物の株元・枯草の下などの地表面で越冬するものと、羽化したまま地中にとどまって越冬するものの2形態がある。

成虫は、灰褐色～黒褐色で、頭部が小さく胸部と腹部が大きいヒョウタン型をしており、体長は6～9mmである。後翅が退化しており飛ぶことはできないが、歩行能力は高い。成虫で越冬した場合は5月上中旬に産卵を開始する。

卵は、寄主植物の毛茸や株元の地表面などに産み付けられる。

幼虫は乳白色～黄白色で脚が無く、植物の地下部をエサとして10mm程度まで成長する。その後、土中で蛹化・羽化し、地上に出現する。本虫が分布する深さは、ラッカセイの場合は30cm・ゴボウの場合は100cmに及ぶため、土中に分布してしまった本虫の防除は困難である。

### <防除対策>

- 1 被害が発生したほ場で秋まで作物が作付けられていた場合には、土中で成虫及び幼虫が越冬している可能性が高い。
  - (1) 広食性であることから、緑肥や雑草が生育しているほ場でも幼虫は生存することに留意する（ただし、ソルガムやスーダングラス等の一部の緑肥では生育できない）。
  - (2) 秋冬期にほ場に残ってしまっている作物の残根や雑草が成虫及び幼虫の餌になる可能性があるため、収穫残さの除去が重要である。また、作付けがない時期は、耕うん等で野良生えや雑草を速やかに除去する。
  - (3) 6月まで裸地状態で管理すると、越冬幼虫が餓死するため被害を回避できる。
- 2 6月以降に作物を植え付けると、周囲に分散した成虫が再度ほ場に侵入する可能性がある。
  - (1) 成虫を捕殺する。
  - (2) 成虫は、障壁を設置しても、乗り越えてほ場へ侵入してしまう。ただし、垂直面の上端に40°の折り返し（ネズミ返し）を設けると、阻止効果が高い。
  - (3) 表を参考に薬剤で防除し、次世代の幼虫の発生を抑制する。

表 ヒョウタンゾウムシに使用できる農薬（抜粋・令和6年12月11日現在）

IRAC コード	薬剤名	適用害虫名	適用作物 ※			
			ニンジン	ラッカセイ	ゴボウ	ネギ
1B	トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	○	○	○	
4A	スタークル顆粒水溶剤/ アルバリン顆粒水溶剤	トビイロヒョウタンゾウムシ	○			○
13	コテツフロアブル	ヒョウタンゾウムシ類	○			○
22B	アクセルフロアブル	ヒョウタンゾウムシ類	○		○	

※ 適用作物によって使用基準は異なる。農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り、適正に使用する。

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：12月上旬、果樹・花き：11月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (長生、海匠)	うどんこ病	発病株率 (%)	0.40	2.36	8.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.00	
	〃	果実発病度	0.00	0.04	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	0.00	0.18	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率 (%)	0.40	0.19	0.90	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.40	0.16	0.80	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	0.40	0.56	1.20	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.12	0.80		
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	3.80	11.70	3.80	頭/30日
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.27	0.20	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.58	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.18	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.06	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	0.00	7.51	16.60	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.16	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	7.20	0.44	0.80	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	11.27	22.53	8.73	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.18	0.00	
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.09	0.00		
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.80	0.00	
	黒腐病	発病度	13.20	1.81	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.48	3.20	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.23	0.08	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	10株当たり寄生幼虫数	0.00	0.07	0.16	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	1.20	0.06	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	1.94	0.80	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.08	0.08	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	3.38	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.38	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	10.90	22.26	14.13	
	〃	成幼虫寄生株率 (%)	22.40	32.63	36.50	
	ネギアブラムシ	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.52	1.50	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	9.20	0.69	4.50	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.17	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.10	1.60	1.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.28	0.00	
	モザイク病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	斑点細菌病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.28	0.80	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.40	0.00	0.00	
イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.67	3.33	1.75	
	炭そ病	発病株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	2.93	3.69	3.50	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	1.07	0.64	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	2.93	15.82	6.50	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率 (%)	18.40	9.70	43.40	
	クワゴマダラヒトリ	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋症	発病株率 (%)	0.00	0.48	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	0.00	14.60	12.00	頭/30日
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.00	4.46	9.10	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	1.40	34.19	25.55	頭/30日
	ハダニ類	成虫寄生株率 (%)	0.00	3.52	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
ストック (安房)	ヨトウムシ類	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.02	0.00	
	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病度	0.00	-	-	
	萎凋病 (露地)	発病度	0.00	-	-	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.60	3.46	2.40	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.58	0.80	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.00	11.56	15.20	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.00	3.75	4.80	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	3.20	4.42	0.00		

\* 黄色粘着トラップ誘殺数は調査日数を30日に換算した値

#### トラップ月間誘殺数 (11月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
	コナガ	海匠、安房	0.82	1.98	0.47	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	42.55	22.91	37.51	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	1.86	0.67	2.22	
	オオタバコガ	県内全域	2.32	1.68	3.75	
	タバコガ	県内全域	0.15	0.11	0.16	

## ○気象予報

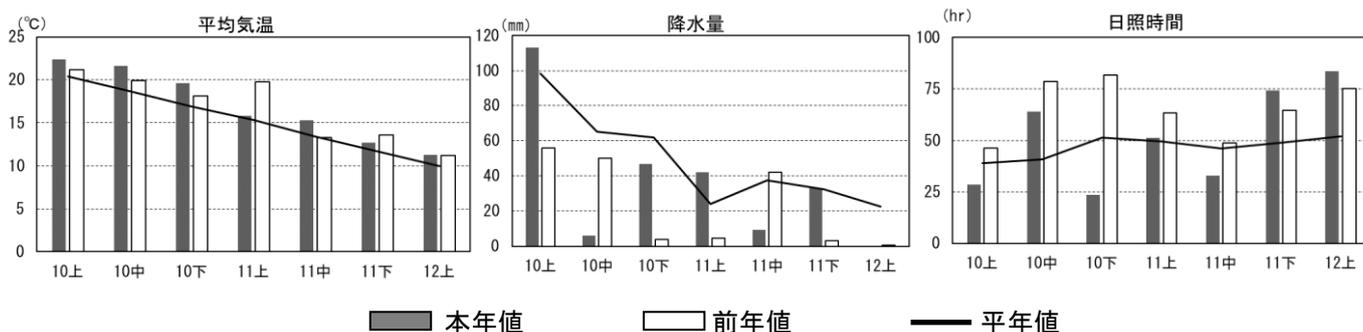
12月12日気象庁発表  
 関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	50	40	10
降水量	50	30	20
日照時間	20	30	50

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
 (12月14日～1月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	7.2	7.7	7.5
降水量(mm)	50.5	80.7	80.4
日照時間(hr)	187.9	176.7	174.8



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は1月16日です。  
 なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp